

本日の内容

1. 選書図書・未確定のレビューに対する意見交換
2. 今後の図書推薦について
3. 図書館からのお知らせ

1. レビュー執筆中・図書手配中の推薦図書一覧（推薦順）

No.	書名	レビュー
9	ほんとうに確かなことから考える妊娠・出産の話	第2稿提出済
11	いまさら訊けない!水電解質異常の診かた,考えかた	第2稿提出済
12	専門医のための水電解質異常診断と治療	初稿提出済
13	Making doctors : the institutional apprenticeship	
14	リアルワールドデータの真っ赤な真実	
15	医療現場の行動経済学:すれ違う医者と患者	
16	「国境なき医師団」を見に行く	

No.	推薦理由
9	<p>実際の現場では、ケアの根拠が不確かなことがあります。助産師のケアにも多いように感じています。そこで、エビデンスとして信頼性の高いコクランレビューを元としている本書によって、より良いケアを考え直すきっかけになればと思い、推薦致しました。ちなみに、他大学での所蔵も多いようです。</p> <p>・提出済のレビュー第2稿に異論はなかったため第2稿の内容で確定とする。</p>
11	<p>非常に多くの診療現場では採血およびその評価という医行為は行われる。いかなる診療科の人間にとってもその評価の能力を身に付けることは必須であると言える。その中で全ての採血において測定される項目の一つが電解質である。しかしながら実臨床において行う機会の多さほどには座学での学習機会は多くはなく、実践の中で学ばざるをえないのが実情である。本書はそんな需要に応える、電解質異常の入門書でありながら、症例に基づいて実践的でもある。</p> <p>・提出済のレビュー第2稿の内容に異論はなかった。 ・レビュータイトルに関して委員からいくつかの案が挙がったので推薦者に共有する。</p>
12	<p>初学者の域を脱したら次に読みたい。 電解質を扱う日本語書籍の中でも指折りの一冊。</p> <p>・提出済のレビュー初稿に対して、読む前にどの程度の知識を要するか、最後に推薦できるポイントを再度強調しては、などのコメントがあったので、推薦者に共有する。</p>
13	<p>ロンドンのメディカルスクールの医学生が、医師になっていく過程で、どのようなことに悩み、どのようなことを考えるのか、医師と文化人類学者が協力して研究したという本書。授業などのオフィシャルの活動はもちろんのこと、アンオフィシャルな生活も調査するため、バーでの医学生の会話まで調査するためにもぐりこんだ、と本紹介の欄に書いてありました。文化人類学という学問が医療という分野にどのような知見をもたらさるかということと、単純に海外の医学生がどういう生活をしているのかを知れるということで、この本を選びました。</p> <p>・英語のレベルや内容(日常用語が多めor専門用語) ・日本の医学生とイギリスの医学生の違いはどのようなところかなどがレビューの内容に盛り込まれているとよいのでは、というコメントがあった。</p>
14	<p>社会医学の授業中にリアルワールドデータという説明があり、興味を惹かれたから。 ※委員からのコメント：一般の方やRWDにあまりなじみのない方向けに良いレビューが書けるのではないのでしょうか。前者よりレビュー向けだと思います。</p> <p>・まだ実際の研究が始まって間もない分野なので、分野の入口として概況やどのようなことが進められているか、などがレビューに盛り込まれているとよいのでは、というコメントがあった。</p>
15	<p>個人的に、最近行動経済学が面白いいろいろ本を読んでいたのですが、行動経済学の考えは人の意思決定を考えるうえでとても参考になると考えていました。「医療現場の行動経済学」ということで、一見理不尽に思える患者の意思決定を理解したり、その特性をふまえて積極的な医療健康行動を促進する方法を提示していて面白い本だと思い、推薦いたしました。</p> <p>・臨床現場での接遇に関して、経済学の観点から客観的に分析したような内容に見える ・具体的な状況に即した事例等があれば読みやすいのでは、などのコメントがあった</p>
16	<p>国境なき医師団の崇高な活動について描くだけでなく、医師団ひとりひとりの生活も描き、彼らも一人の同じ人間なんだと感じさせてくれる本です。ネットでの評判もよかったです。推薦いたしました。</p> <p>・「国境なき医師団」への漠然としたイメージを具体化できるような内容 ・実際に自分のキャリアとして考えている人向けの情報(本文の内容で十分でなければ参考図書など)などがレビューに盛り込まれているとよいのでは、というコメントがあった。</p>

2. 今後の図書推薦について

・選書タイトルについて

- 各委員が現在検討中のタイトル

「ブレイン・マシン・インタフェース(BMI)」関係のタイトルを検討中

『ブレイン-マシン・インタフェース最前線』

<https://m.kulib.kyoto-u.ac.jp/webopac/BB02439577>

『ブレイン・マシン・インタフェース：脳と機械をつなぐ』

<https://m.kulib.kyoto-u.ac.jp/webopac/BB02489460>

で迷っており、現物の内容を他の委員とともに検討した。

出版年はやや古いですが、2014年刊行の『BMIの現状と展望』（別冊・医学のあゆみ）に参考文献として挙げられるようなタイトルで内容に問題はないと思う。

総論的（前者）か各論的（後者）かなど、内容構成にも違いがある。

レビューの書きやすさなども考慮してどちらかに決定しメーリングリストへ流す予定

検査値関係のタイトルを検討中

『検査値を読むトレーニング：ルーチン検査でここまでわかる』

<http://www.igaku-shoin.co.jp/bookDetail.do?book=87545>

を考えており、まもなくメーリングリストへ流す予定。

看護職が医療現場で戸惑うところをフォローしてくれる内容でその点をレビューでも書きたいと思っている。

生命科学系データベース関係のタイトルを検討中

『生命科学データベース・ウェブツール』

https://www.medsj.co.jp/books/products/detail.php?product_id=3665

『生命科学データ解析を支える情報技術』

<https://gihyo.jp/book/2019/978-4-297-10319-4>

で迷っており、書誌情報をもとに他の委員とともに検討した。

前者は入りやすい代わりに余り掘り下げられた内容ではないように見える。後者は具体的に掘り下げられていて読み応えがありそう。

ミーティング内容をもとに検討しどちらかをメーリングリストへ流す予定

助産学関係のタイトルを検討中

『週数別 妊婦健診マニュアル』

<http://www.igaku-shoin.co.jp/bookDetail.do?book=104521>

『アセスメント力を磨く 助産師のためのフィジカルイグザミネーション』

<http://www.igaku-shoin.co.jp/bookDetail.do?book=93010>

で迷っており、書誌情報をもとに他の委員とともに検討した。

どちらも座学から現場に出る際に戸惑う部分をフォローするような内容だが、助産以外の分野にも広がりがあるのは後者かもしれない。

ミーティング内容をもとに検討しどちらかをメーリングリストへ流す予定

・選書～レビュー執筆～投稿のスケジュールについて

- 現在推薦中（近々推薦予定）のタイトルのレビューを【今年度末まで】に確定とした

※図書館ではレビュー確定後すぐにKULINEへの投稿や館内展示を行います！

→レビュー初稿提出〆切 **【3月20日(水)】**

※ 上記の日付はあくまで目安。各委員のスケジュールに応じて相談可

3. 図書館からのお知らせ

- ・第1回選書タイトル図書館で展示（ウェブサイトでも広報中！）



- ・附属図書館、吉田南総合図書館のTwitterでも取り上げていただきました！

